

# 令和4年度第1回 鏡野町総合教育会議 議事録（要点記録）

1 日 時 令和4年12月21日（水曜日）  
午後1時開会 午後3時22分閉会

2 会 場 中央公民館 第4会議室

3 出席者 町長 山崎 親男  
教育長 武本 吉正  
教育長職務代理 石原 昭和  
教育委員 佐古 庸二  
教育委員 小椋 潤二  
教育委員 宗川 万喜子  
教育委員 赤松 幸子

（事務局関係）

総合政策室長 瀬島 栄史  
学校教育課長 黒瀬 豊  
学校教育課長代理 忠政 善貴  
学校教育課長補佐 片田 篤志  
生涯学習課長 小原 克則

4 協議事項 （1）教育目標について  
（2）小学校の教育環境（あり方）について  
（3）中学校部活動の地域連携について  
（4）社会教育施設の整備について  
（5）総合文化施設（ペスタロッツ館）の施設管理業務委託について  
（6）その他

5 会議の経過及び発言  
○開会  
○山崎町長あいさつ  
○武本教育長あいさつ  
○協議事項

発 言 者	発 言 の 要 旨
瀬島室長	最初に教育目標について学教教育課の方から説明をお願いします。
忠政課長代理	<p>鏡野町では教育大綱としまして基本目標「自立と共生を基に心豊かな教育の推進」ということで進めており、基本方針を6つ掲げて取り組んでおります。現状としましては概ね町内小中学校落ち着いて学校運営がされています。学校訪問した際も落ち着いて授業が推進されていると思います。ところどころ小さな課題や問題がありますが、それについては学校の方が早期に対応を進めていることが見受けられます。</p> <p>鏡野町の大きな良さとして、町費での教育支援員、ICT支援員、図書館司書の配置、問題行動面ではスクールソーシャルワーカーの独自配置など、学校が必要としている人員配置が手厚く現在の落ち着いた環境に繋がっていると考えられます。どの学校も学校長のリーダーシップの元、その学校の特色に応じた学校運営を行い、創意工夫を凝らした教育活動を行っています。鏡野町が目指しているペスタロッタタウンである知・徳・体とバランスのとれた子ども達の育成に尽力しているように感じられます。</p> <p>重点課題の確かな学力と繋がる場所ですが、近年学力向上が県でも重視されていまして、毎年春に学力・学習状況調査を小学校3年生以上に対して行っております。令和3年度は非常に課題がみられて全国平均と比較してもマイナス5ポイント以上の差がみられましたが、令和4年度も課題はありますが全国平均3ポイント以内に改善傾向がみられました。全国調査では中学校においては全国平均レベルでした。学力調査については学年の実態によって変動しますので年によっては上下推移が見受けられます。どのように経年変化しているのかを見る必要だと学校と共通理解しているところです。取り組みとしましては主に子ども達の過ごしている授業の中で確かな力を身に付けさせるような授業をしていくことが大切だということで進めています。教員の指導力が影響しますので指導力についても授業研究、校内での研究を進めていき、各校の課題として苦手な教科やどの点に力が必要かの課題に応じた取り組みも進めてもらっています。</p> <p>家庭学習も大切で教員から出された宿題だけでなく、子どもが自ら進んで取り組む自主学習も活性化してもらっています。また昨年度から鏡野町独自の学力調査を3学期に導入させてもらっています。学力向上プランにつきましては、配布した資料の最後のページの鏡野町の学力向上年間推進プランということで4月から3月までの取り組みをプランとして挙げています。各学期に学力調査を行って年間の取り組みがどのように変容しているのかを子ども達の状況を把握しながら課題への取り組みを学校に進めてもらうようお願いしています。また各校に学力向上担当者がおり、担当者を参集して学力向上推進委員会を町教委主催で行っており、共通理解を</p>

して現状の様子を把握、取り組みの交流をしながら進めているところです。

続いてGIGAスクール構想についてですが、令和3年度に鏡野町でも一人一台タブレット端末を配備して活用がスタートしています。令和4年度につきましては端末の活用をしっかりと進めていくということで、学校の方が推進してくれています。学校によって推進格差はありますが、授業の中で使ってもらうようお願いしているところです。

タブレット端末を家庭に持ち帰って家庭学習にも活用するということが今年度6月から週1回の頻度で持ち帰りを勧めています。冬休みには全校が持ち帰って家庭学習に活用するように勧めていますので、学校教育課としても電源コードを購入しまして、1人1台端末を持ち帰って活用を進めていくようお願いしています。

このICT活用は子ども達の情報活用能力を高めていくことが目的です。低学年からキーボード操作に慣れていくためにタイピング学習なども行っています。

長期欠席、不登校についてです。先日の議会でも質問が出ていましたが近年、長期欠席の子ども達が増加しています。子ども達の中には人間関係を作りにくい子、不安傾向が強い子、発達特性によってコミュニケーション障害や学習障害などで学習についていけない子が長期欠席の傾向にあります。南小学校では教室に入りづらい子のためにステップ教室を設けています。授業についていけない子や教室に入りづらい子などにも個別に対応しています。

また赤木スクールソーシャルワーカーと県から派遣された小寺スクールソーシャルワーカーが学校を巡回して学級の様子や子どもの個別の様子を把握したり、子育て支援課の三上臨床心理士も保護者と面談をしたり家庭訪問をしたりして子ども達の状況を掴むようにしています。

中学校では教室に入りづらい子のためにオープン教室を設けており、学校に行ける時に学習するようにしています。

定住自立圏の関係で津山市の教育相談センター鶴山塾を利用させてもらっている児童・生徒もいます。今年度は6名が利用しています。

鏡野町は放置をしないことで何かしらの繋がりを持つようにしています。学校も繋がりを持つように努力してもらっていますし、周りからも繋がりを保つようにしています。

コミュニティ・スクールにつきましては、令和4年度は鶴喜小学校、香々美小学校が学校運営協議会を設置して運営しています。鶴喜小学校では年3回、香々美小学校では年5回、協議会を開催してどのように子ども達に育って欲しいか地域の皆様と協議しています。地域の願いを取り入れた学校運営を共通理解の元に学校と保護者と地域で子ども達を育てていくということでしっかり協議しています。

令和5年度につきましては南小学校と奥津小学校がコミュニティ・スクールを設置する予定です。大野小学校も設置の検討段階ですが町内の色々な学校がコミュニティ・スクール設置に向けて進めています。地域の教育力も生かして地域と共にある学校運営を推進していくということで進めています。以上です。

瀬島室長

それでは委員の方から意見や質問等ありますか。

武本教育長

まだ細かな部分でお伝えしきれていない部分がありますが、説明にあった取り組みの方針に基づく具体策の紹介をさせていただきました。流れとしては町長にも踏まえてもらっているところですが、「自立と共生を基に心豊かな教育の推進」さらに「家庭・地域の教育力向上と知・徳・体の調和のとれた教育の推進」を教育目標に進んでいます。

教育目標はある程度時期をみて見直していくものですが、就任以来変更しておりません。自立を促し、友達と共に学びあって、育ちあって、生き抜く力を養成する。そのためにも非認知能力を伸ばすために心豊かな思いやりのある子どもに育ててもらいたいという教育目標だと思います。具体的には知・徳・体ということでペスタロッチの教えの流れになります。他の学校でも重要ということで見直されています。こうしたものを目標として置いて適当だと思います。

先程の説明の流れをもってするならば、具体的に教育目標に取り入れるものがあるならば町長から意見等あれば聞きながら進めていこうと思います。

山崎町長

どうしても学校教育の一つの基準として全国平均がありますが、昨今東北では不正があったとの報道がありました。そういったニュースは子ども達も知っていると思います。片方では塾と学校教育のバランスが社会問題とされています。

先程の挨拶でも述べました生きる力が教育の中の大きな一つだろうと思います。家庭内教育や地域力が落ちてきているのが大きな原因だと思います。地域の子供達に触れ合う機会が少なくなっているところでは先程の説明で心強く思っていますので、これから子ども達のゆるぎない基礎としてさらに学力がついていけばと思います。

そのためには、地域にキックバックしないとこちらから投げかけるだけでは駄目なので、例えば区長幹事会を通じて地域に落としていくのも方法の一つです。地域のコミュニケーションの部分としては是としていますか。

忠政課長代理

資料に子ども達へのアンケート結果がありまして、地域とのふれあい、

地域の行事に参加するについては鏡野町は飛び抜けて高いです。全国平均を高く上回っており地域への愛着度が高いのを感じます。

武本教育長

委員の皆様からも思いを頂ければと思います。町長からは地域との繋がりができていけば自ずとの話をいただきました。町としてもコミュニティ・スクールの紹介がありましたが、地域の方が学校に入って地域の状況を伝えて関わりを持っていく部分と逆に地域が協働活動の中で地域の行事を学校の中に取り入れて教育に反映していく取り組みをやってきています。特に小さな学校では切っても切れない学校運営がなされています。そういう部分につきましては閉校になっても地域と繋がるように、奥津小学校、香々美小学校それぞれコミュニティ・スクールを立ち上げて関わりを持って行くことは約束したいと思います。

そうした中で課題解決型の学習が求められていますので、そういった方向に授業展開がシフトしていくと思います。自分たちが課題を掘り起こしてそれを解決していくのにどうしたらよいか討論して、自分の考えを聞いてもらい相手の考えを聞いてしっかり解決に結びつけていくことを地域の方に提言する。そういった学習が必要だと思います。それに向けた学習の形を教員も指導力をつけていく中で見識を深めてもらいたいのが現状です。

山崎町長

少子化で子どもが少なくなっている現状もあり、それに対して地域から学校に行事があることをアプローチする必要があると思います。昔は子どもがどこにでもいた時代ですから行事のことを家庭の中でも自然に子どもが聞いて、当たり前のように学校行事の中で第3土曜、日曜日に祭りがあるから時間の調整をしてもらった環境がありました。現在は地域の中で子どもも少なくなっているの地域の方から学校に行事があることを伝えた方が良いと思います。

武本教育長

コミュニティ・スクールが地域からのアプローチが可能になる組織だと考えています。

石原委員

昔と比較して地域から案内をして授業の時数等の中で例えば、午後休みということが難しいと思いますが、祭りに参加する場合に情報を集めても神社がいくつもある学区もあるわけですから、休んで帰るわけにはいかないと思います。祭りも土日の開催になってきているので、地域から学校に行事があるのを伝えていくのは必要だと思います。祭りに出て行って顔を知ってもらい地域愛を発するいい場になると思います。

小椋委員	<p>上齋原小学校は唯一、奥津小学校に統合して上齋にも様々な行事があるので学校に参加するように言ったのですが、上齋の子どもだけ集められないという返事が返ってきました。人数は少ないですが一定の地域だけの休みにできないという実情があるので、来年度の富が奥津に合併すれば同じような状況になるのではないかと思います。</p>
武本教育長	<p>奥津の紹介をさせてもらいますと、とんどが昔からありますが、休みならいつでも出られる想定の中で早目の時間、平日の場合は14日にしていますが子どもが帰ってくる時間帯を見計らって始めるように取り組んでいます。やる側がどういう気持ちで子ども達に関わっていくかを考慮してくれたらと思います。学校は全ての地域行事のために早く帰るようにするのは厳しいと思うので地域の方で調整してもらうのも必要だと思います。まずは、家庭と子ども達と一緒にやっていく思いを持ってもらうのが大事だと思います。</p>
佐古委員	<p>学校と地域の話ができましたが、教育目標についてですが、鏡野町で育ったことに愛着をもってもらうというような表現を教育目標の中に取り入れたらいいと思います。</p>
赤松委員	<p>学校訪問をさせてもらって地域での活動を取り入れてくれている学校がほとんどだと思います。鏡野町を海外に発信するような活動もされていました。文言に取り入れても各学校は目標の一つにして学校経営など先生方と協力して進めていけるとと思います。</p> <p>この資料に書かれていることは大事なことで実際にされていることだと感じています。文言も毎年変えるなど精査されて作られていると思いますが、これを全て学校の先生が分かっているうえで扱っているか懸念しています。読んでいただいて勉強して理解してもらうのも大事ですし、先程言われました自立、共生、心豊かにであれば、その言葉をきちんと先生方も自立、共生、心豊かにそして地域を豊かにという風に子ども達に育てるような教育活動を入れてくれるような気持ちになると思うので、こういった言葉を基にして各学校の独自性を生かして進んで欲しいと思います。</p> <p>先程、町長が言われました生きる力について、これが一番大事だと思います。それを学校では生きて働く力にするような教育が必要だと思います。教育は子ども達が将来、自分の人生をどう切り開いていくかで、それだけでは寂しいので鏡野町や地域を愛して地域のために何ができるかの二面性を考えることができる子どもに育ててほしいと思っています。できれば多くの子ども達が鏡野町に残って欲しいと思っています。地域の方たちにも「こういう形で取り組んでいるのでこういう形で子ども達に声をかけてく</p>

ださい」と一貫していけば進むかと思えます。

山崎町長

総合教育会議なのでこういった話ができますが、区長幹事会でこれを話しても皆さんの近くに子ども達がいなくて分からないことが多いです。子ども達は大人の社会を見ているから区長幹事会の方達にも子どもの社会をもっと見て欲しいです。今の区長や私たちが今の子ども達を分かっているないのでその距離を縮めるようなアピールや行動をすれば入りやすいのかなと思います。昔は地域の中に子どもがいたので大人たちが子どもの様子を見ていましたが、現代はそういった環境にないので少なくとも同じ鏡野町の子ども達であり、これからを背負っていく子ども達ですからその点について知恵を借りられないかなと思っています。

石原委員

地域での3世代含めて交流が希薄になってきていると思います。地域とすれば時間設定を考慮して行事を進めていく。ここ2、3年のコロナ禍は別としても各地域で行事自体が減ってきていると感じます。区長幹事会で何かするという話にもならないと思いますし、ある程度旧村単位的な学校内での地域活動の活性化が社会教育になるかは分かりませんが、公民館等を中心として活用できればと思います。少子化の中で子どもを対象とした活動は地域で厳しくなっているのが現状だと思います。対策としても人を増やすくらいしか思いつきません。

山崎町長

地域の中に子どもがいましたが、地域の子どもは分かれて別の所になってしまったので地域の中に取り込んでいければと思います。

石原委員

各区単位だと0で、それを旧村単位にすると広すぎて集まらない。何かする際には小中学校になるとPTA関係がありますし、未就学児や保育園に通っていない子どもは母子クラブもあるとは思いますが。

山崎町長

佐古先生、赤松先生が言われた様に重点課題の中に落とし込んでから伸びていくような課題だと思います。

武本教育長

重点課題に落とし込むことには問題はないと思いますけど、鏡野町として教育目標として一番にそこを目指す位置に落とし込むことが本当だと思います。

先程、赤松先生が言われましたが校長は学校目標を作る際に教育目標を基に沿った学校教育目標を立てています。それを全教職員には学校目標として周知をしてやっていくように学校間では行っています。町の一番頭にある方針について先生方は知らない可能性もあります。その部分につき

	<p>ましては学校訪問をする際や新しい先生方が揃う際にしっかりとお伝えする必要があると思います。</p>
赤松委員	<p>地域との繋がりもコミュニティ・スクールの話し合いの中で地域を入れ込むことが可能だと思います、地域の方もそれを望んでいると思いますのでコミュニティ・スクールを活用するのがポイントになると思います。</p>
瀬島室長	<p>自立と共生を基に心豊かな教育の推進が教育目標でこれをコミュニティ・スクールの活動で広げていくということによろしいですか。</p>
山崎町長	<p>自立を噛み砕くところといった目標が、共生を噛み砕くところといった目標が出てくるという考えた方が良いと思います。地域コミュニティを教育の中に取り入れるとすれば、それは必要な物であってテレビもニュースも見ない、端末でニュースがみれる時代でそれぞれの個人が認められる中で権利擁護なども出てきて壁になっていると思います。元々は地域の皆さんに生かされていたので、その教育が薄れてきていると思います。子ども達が助けを求めることをしないということになっているのではと思います。分からないことは聞く力は必要なくなったのでしょうか。</p>
武本教育長	<p>学校では分からなければ聞くようにしていますし、学校訪問した際にも分からない時には尋ねるように学校内でしているようです。それが地域に戻って知らない人に尋ねるといったことはありえないと思います。そういう社会的な環境をどうしていくかは考えていく必要はあると思いますが、学校内でどこまで求めていくのかと必要な教育は施していくことは念頭に置いてやっていると思います。</p> <p>主体的に考えて発言をしてやり取りをする授業では活発にされています。将来的にはセッション能力、コミュニケーション能力にも繋がってくると思いますので今後もやっていきたいと思います。</p>
山崎町長	<p>子ども達が大人になって鏡野町に帰ってきたいと思わせるには地域の愛情が感じられるところだと帰ってきますか。</p>
赤松委員	<p>自然も大きいと思います。地域の方と挨拶だけでもいいから声を掛け合っていると次第に会話ができるようになってそれが増えて地域と繋がれるとは思っています。</p>
瀬島室長	<p>地域との繋がりを大事にして協議を進めていくということを今後考えていきたいと思います。続きまして小学校の教育環境のあり方について説明</p>

黒瀬課長

をお願いします。

令和3年10月4日の答申を抜粋しております。最初に大野小学校、香々美小学校、香北小学校についてです。

大野小学校の教室数の関係から、次の2段階で統合を行います。最初に香々美小学校に香北小学校を統合します。これは現在進めています。次に新校舎建設後、大野小学校、香々美小学校（香北小学校を含む）を新設統合します。新校舎は場所の決定、設計、造成、建築に係る期間を経て、令和10年度の開校を目指す予定です。

今後の予定としまして令和5年度は用地選定を早急にしまして12月に農振解除申請をします。農地転用は不要です。令和6年度5月に農振解除決定があり、その後用地買収、実施設計委託、場所によっては開発行為申請をします。約6ヶ月で許可があります。令和7年度に造成工事、令和8年度から9年度の2年間をかけて新校舎を建築します。そして令和10年度に新小学校開校予定になります。

土地買収に関して、土地収用法と租税特別措置法施行規則により事業認定は不要になり5千万の控除は受けられることになると思います。

続いて奥津小学校の存続についてです。奥津小学校をどのように残していくかになります。奥津小学校は鏡野町のほぼ中央に位置しており、奥津小学校を閉校すると鏡野町の広い面積を占める北部から学校がなくなってしまいます。

奥津地域には鏡野町を代表する温泉施設や情緒ある風景、歴史、風土があり、奥津小学校は地域のコミュニティの存続に決定的な役割を果たしています。そのため、奥津小学校の閉校は若い世代の転入の減少や子育て世代の地域からの転出、ひいては更なる過疎化の進行を加速させる誘因となることを意味します。これらのことから、奥津小学校は今の場所に残し、鶴喜小学校との統合を行わない方針です。

奥津小学校を残す方法の提案として小規模特認校制度という制度があります。小規模特認校制度は、学校選択制の一つである特認校制を小規模校で実施するもので、特定の学校を特認校として指定し、少人数での教育の良さを生かした、きめ細やかな指導や特色ある教育を行うものです。このような環境での教育を保護者や児童生徒が希望する場合は、従来の通学区域は残したままで、学校選択制の一つとして町内のどこからでも就学を認めます。例えば、奥津小学校が特認校の場合に南、大野、鶴喜小学校の区域から選択して奥津小学校に就学することができますが、逆に奥津小学校からは各学校へ行くことは認められていません。小規模特認校との違いとしては、町内全域から就学することができます。他校にはないその学校だけの特色ある教育カリキュラムを実施できます。

これまでは、子ども達にとってより良い教育環境を充実させる方法として、統合という方法での学校の適正規模、適正配置化を進めてきました。

小規模特認校はこの統合とは異なる方法で教育環境の充実を図るものです。次の3ページのメリット・デメリットについては各自で確認をお願いします。

次の4ページの表は令和5年度から令和11年度の大野小学校、香々美小学校、香北小学校の児童数を掲げています。下の折れ線グラフで人数の増減が分かると思います。5ページは南小学校、鶴喜小学校、奥津小学校の推移になります。奥津小学校は令和5年度の7名から令和11年度には1名になってしまいますので奥津小学校を存続させるためにも小規模特認校制度を今後考えていければと思います。以上です。

山崎町長

特認校を選択するのは保護者だと思いますが希望を募ったりするのはいつ頃ですか。

忠政課長代理

まず令和5年度を周知期間として令和5年度の10月から12月に保護者が希望して申請書を出す流れになると思います。

山崎町長

仮にですが、南小学校に通っていていじめや事情があって年度途中から特認校に変わることはできますか。

忠政課長代理

年度途中はありません。4月から入学するか学年として入るかになります。

石原委員

町長が言われましたが、いじめなどで不登校気味な子どもに関しては特認とは別にいけます。

山崎町長

問題を抱えた子ども達が学校を嫌になり通わなくなってしまうことが長期に渡ると保護者が判断した場合に救済措置があるとは聞きましたが、それはそれとして教育委員会で相談を受けて対応できるということでしょうか。

武本教育長

4月1日のスタートの中でそこを選択するかどうかは原則になります。その中で中途を受け入れるかどうかは教育委員会で決めることになります。それが可能だとは言えませんので教育委員会がどう判断して受け入れ態勢を整えるかになります。このまま進めていいのかについては町長の判断を頂きたいと思っています。

山崎町長	<p>昔は駄目という基準でなるようにしかなりませんでした。今では特認校が認められるような時代になったのもっと早く進んでいけば大人たちの働く社会が変わってきていますし、その中で子育てをしています。子ども達にも障害を持っている子どもが増えてきている環境の中で、訳あって片親で育てる家庭もあります。昔では考えられないような課題が実際にあります。そうした子どもたちがいる前提に鏡野町では対応可能だと言えれば特認校が一つの救いになるのではと思います。</p>
佐古委員	<p>広い面積の上齋、富、奥津に学校が一つしかないのも絶対に残して欲しいです。その為の一つの方策として方法があるなら取り入れて欲しいです。特認校はまだ人数が確定ではないので申請がなければ先程示された人数で奥津小学校をやっていくこととなります。奥津小学校に子どもが増える施策をしてもらいたいです。</p> <p>上齋、富、奥津に例えば町営の住宅をつくってそれぞれの地域に若い人が入ってきて奥津の小学校に通ってもらうような明るい施策で学校を残して欲しいです。富に住宅が建った際に若い人が入ってきた事例もあるのでよろしくお願いします。</p>
瀬島室長	<p>特認校の指定はどこが行いますか。</p>
黒瀬課長	<p>指定は教育委員会が行います。</p>
瀬島室長	<p>議会は関係ありますか。</p>
黒瀬課長	<p>議会への説明は必要だと思いますが議決の要件はないと思います。</p>
山崎町長	<p>教育委員会で決定する事項であれば、どれだけのりしろがあるかによりますけど切羽詰まった保護者の方もいると思います。送迎などはどうしますか。</p>
黒瀬課長	<p>原則は保護者が行うことになっています。人数が増えて相談が多数あればスクールバスについても考えなければと思っています。</p>
山崎町長	<p>どの様に交流人口を増やし続けていくかが大きな課題だと思います。教育も特認校を増やせば大きなアピールポイントになるのではないかと思います。</p>
武本教育長	<p>教育環境のあり方ということで議題として挙げています。香々美小も奥</p>

津小も同様の方法で統合する形になっています。児童数もほぼ同じ推移で流れている中で香々美小を特認校にしていけないのは大野小学校への統合が目に見えてあるからという思いです。大野地区から香々美小学校に行くかもわかりませんが、近い将来一緒になるというのもあって載せていません。

これで10年度が11年、12年度にずれ込むということになると改めて複式学級が復活します。来年度からも複式学級のセットになりますが、単複は繰り返しになる状況が見えてくるのでそこは単級で行くことを津山教育事務所と確認して約束をしています。令和8年から9年あたりは複式になりますが10年度が単式になるのが確実だから、そこは単式で行く流れがみえています。ただこれがずれ込むと一度複式に戻す可能性があるので大野小学校の統合についてはシビアにスケジュールを追っていかないといけないことが求められると思います。

黒瀬課長が作成した資料の中で本当に漏れがないのか、1年ズレたらまた出てくることを踏まえて進めなければいけないと思っています。確実に令和10年開校ということで大きな予算が伴ってきますので財政調整をしていながら町長部局と調整しながら進めていきたいと思っています。

瀬島室長

大野小、香々美小、香北小の統合につきましては教室の数が足りなくなるため、令和10年度に送っています。大野の児童数が増加している現状ありますので人口のコーホート分析をかけたみたいと思います。子ども世代の人口がどうなっているか分析をかけないと、新しい校舎を建てても空き教室ができていけませんので分析をさせていただきます。

教育長の方からもありましたが内定的なこともありますので、できるだけ最小限の予算で求めたいと思っていますので新しい学校につきましては教育委員会と町長部局とで相談して進めていきたいと思っています。逐一ご報告の方はさせていただきます。

山崎町長

ある程度は予定が狂わない開校を目指していきたいと思っています。ここだけで収まらない話もあると思いますが、ここで表記されているのは10年度ですが11年度に必ずやると明記して進める必要があると思います。

瀬島室長

教育環境のあり方については以上とさせていただきます。それではここで10分間の休憩を取りたいと思います。

《 休憩 》

瀬島室長

続きまして中学校の部活動の地域移行について説明をお願いします。

運動部活動の地域移行に関する検討会議提言の概要になります。文部科学省が平成30年、令和2年に渡り運動部活動の在り方についてのガイドラインと部活動の改革について協議を進めてきました。令和4年6月6日、8月9日にスポーツ庁、文化庁で部活動のあり方について検討会議が開かれ改革の方向性がある程度決まったのでお伝えします。

改革の提言としては休日の運動部活動から段階的に地域移行していくことを基本とします。目標時期は令和5年度の開始から3年後の令和7年度末を目途に運動部活動、文化部活動を地域に移行することを考えています。県と国として現在の部活動は学校の部活と位置付けられています。部活動という言葉は廃止して学校から部活動をなくすレベルの改革を行おうとしています。

これについて鏡野町としても今年12月1日に第1回目の鏡野町立中学校部活動地域連携検討委員会を立ち上げまして、鏡野町のスポーツ、文化部について協議をしていくように動いています。

次ページは国の検討会議による提言になります。国としては指導者の減少、部活動の継続維持の困難、部活動がなくなったり子どもの減少でやりたい部活動がなくなるということができたり、先生の働き方改革も加味して検討していくとのこと。スポーツ、文化活動の機会を学校主体の取り組みから地域主体への取り組みに移行していきます。地域でスポーツ、文化活動の実施できる環境の整備、休日に教師が部活動に携わる必要がない環境の整備を挙げています。

次ページに現在の鏡野中学校の部活動の状況を載せています。中学校の生徒が344人おり、その内306人が入部しています。それぞれの運動部、文化部に分かれて加入しています。小学校6年生に来年の入部希望の調査をした表も載せています。顧問についてはそれぞれの部活動の顧問を載せています。競技経験のない先生が8名おり未経験の競技を指導しないといけない状況になっています。

次ページは検討委員会で話をした中で教育委員会としてどのような課題があるかを挙げています。

子ども達にとってふさわしいスポーツ・文化環境の実現として、①実施主体をどこが持つかになります。現在は中学校が主体で持っていますが、地域が主体で持つ場合にどこが事務局を持つのが最初の問題になると思います。ここが決まらないと先に進まないと思います。

②スポーツ団体等の整備充実及び活動内容になります。受け皿として鏡野町にどのようなスポーツクラブ、スポ少団体、体協団体、文化部団体がどの程度あって学校が終わって部活動の時間に指導してくれる方がいるかが懸念材料になります。

③スポーツ指導者の質・量の確保ということでどういった方がいるかが

問題になります。

④スポーツ施設の確保ということで今は部活動なので中学校のグラウンド、体育館等を使用しています。これが地域移行になって部活動でなくなったときにどのように分けるかが懸念材料になっています。

⑤総体や大会等がどうなっていくのか。

⑥運動部、文化部をする際に会費、部費はどうするのか。指導者はボランティアなのか公費を出して指導員を雇うのか、入部している生徒の保護者が負担して運営するのが懸念材料になります。

⑦保険のあり方をどうするか。

⑧その他として交通手段をどうするか。中学校の大会や遠征についてはスクールバスを出している場合もあります。地域移行して部活動から切り離した際にはスクールバスの活用ができるのか、保護者が全て送っていくのかなど懸念材料があります。

鏡野中学校には現在、部活動指導員が3名います。担当部活動としては、バレー部、ソフトテニス部、柔道部で鏡野町の会計年度任用職員として雇用して部活動の指導をしてもらっています。部活動の地域移行の問題点などを説明させていただきました。以上です。

瀬島室長

部活動の地域移行について質問、意見等ありますか。

山崎町長

全国町村会を通してねらいが掴めないということで反対という意向を示しております。

武本教育長

町長が言われた通り町村会の地域の実情を踏まえない提言内容だということで、国の方もある程度試験的に学校を選定してやっております。昨年度も県下で3校実施しておりますが有効性は検証できてないそうです。今後さらに国の方も地域の現状では難しいという話が出る可能性はありますが、都会の方でそういった形でやり切っていくことになると、片や都会の公立学校の先生は何もせず、片や田舎の公立学校の先生は今でも活動が行われていると頻繁に出てくると思うので、その辺りの整合を国も上げた拳を振り下ろせない状況が出てきそうな気がします。

土日だけの対応になるとある程度は鏡野町でも設定してやり切れるかもしれませんが、その先が見えませんが、やったけれどお願いした指導員を引上げさせて学校から取り除くという方向性を示されると難しいので、そこまで考えて先手を打って施策を整えていく話をしていく必要がありますが厳しいと思います。

確かに少子化が進んで今ある部活ができなくなる可能性は否定できませんし、今までもできない時には3校合同で部活をやる取り組みをやって最

終的には廃部になることもあると思います。そういった議論ではなくて先生が部活動を教えている状況を何とかしていく手段があるわけですから、国の動向を見据えて協議を進めていくことに当面はなると思います。

先程触れた中体連の大会にクラブチームが参加できるようになった際には結果が見えているので、クラブチームに参加資格として土日どちらかだけにするような要件があります。部活ができないからクラブチームに移ってやってもそこからの参加ができない想定がされているのですっきりした形で議論が進まないと思います。

国としては中学校部活動を教育課程から除外するのは基本線で進めてくると思います。

赤松委員

第2回の協議会が2月15日に開催になっています。第1回は中学校部活動のあり方について確認をしたところですが。全国市町村会で反対ということになると地域移行しないことになる場合、2月からの検討委員会で何をどういった話をしていくのか。鏡野町がもし地域移行を進める場合にはどういった人材がいて受け皿について形だけでも検討しておいた方がよいですか。

山崎町長

直ぐに決めるということはないと思います。するとして進めるのと止めるものとして進めるのは違うと思いますので、子ども達のことを考えるならやれる方法としてどういった方法かを考えた方がよいと思います。

教員側と行政とで話し合いをして、会社勤めをしながらアルバイトをしてもいいので個々に契約を結んでバイトをすることも可能だと思います。

中学校から高校になる際に内申書があると思います。学力だけでは見えない一人の人間として見るのに部活は大きな意味があると思いますのでそういう点を見るのが難しくなるのではと思います。

赤松委員

今後の可能性に向けて皆様の知恵を借りていきたいと思います。

佐古委員

部活をしてきた身としては生徒指導上の問題があると思います。それを外部の方がその生徒のことを知っていて練習や試合に臨むという部分があるので、希望するから指導者にするというのは難しいです。教育的観点から指導する方を選ぶのは難しいと思います。

数十年前に部活動指導員を地域の人がやっていました。その人は勝利至上主義の方で学校としても困っていました。進路にも関わってくるような外部指導者だったので指導者を選ぶ際にしっかり検討する必要があると思います。

赤松委員	<p>ガイドラインにも書いてありまして、これまでの部活動の意義を踏まえて指導してくれる方、勝利至上主義にならないように活動を楽しめるようにとガイドラインにあります。実際に指導者になってもらうことを頼む際に事細かく決めるのは難しいので人材を紹介してもらいながら、お互いの条件を煮詰めていって共通理解を得た上で進めないと子ども達が困る立場になると思います。</p>
瀬島室長	<p>部活動の地域移行ということは元々の問題もあって今回の話もあるので擦り合わせが大変だと思います。地方で人材不足の中でこういったことを進めるタイムリミットがあるのは大変だと思うので周りの情勢を見ながら進めていくということでお願いします。</p> <p>続きまして社会教育施設の整備について説明をお願いします。</p>
小原課長	<p>来年度に生涯学習課で計画している社会教育施設の整備ですが、改修改良事業としまして香南公民館を考えております。香南公民館は建築から29年経過しており、内部の老朽化も進んでおり、建物の長寿命化も図る必要があります。トイレのバリアフリー化、一部照明のLED化等を計画しております。今年度設計業務を委託しており来年度は改修工事に取り掛かられると思います。続きまして鏡野町文化資源保存伝習館の解体事業を計画しております。</p> <p>文化資源保存伝習館は旧羽出小学校を利用して平成4年度に改修して文化資源を保存していますが、築54年ということで危険な状態となっておりますので取り壊しの計画をしております。取り壊しに当たって建物内に文化財が保存されたままなので、移動先の倉庫を来年度に建築して文化財を移動してから伝習館の解体工事に着手する予定です。</p> <p>続きまして現在整備中の多目的公園になります。多目的公園は令和5年度が最終年度になります。図面を見て頂きますと黄色く着色されている部分が5年度に施工予定の部分になります。青の部分は今年度までに完成しているもの又は着工しているものになります。面積的には残りの方が広いように思いますが部分的にも黄色の部分も着手しておりますので計画通り進行できていると思います。以上です。</p>
瀬島室長	<p>続きまして総合文化施設（ペスタロッツ館）の施設管理業務委託について説明をお願いします。</p>
小原課長	<p>鏡野町行財政改革の取り組みとして令和4年度からペスタロッツ館と図書館等の指定管理あるいは業務委託等の検討、休日の開館、開館時間の延長を考えるように謳われています。</p>

	<p>検討状況としては、生涯学習課としては図書館等の管理委託、受託実績のある企業のTRCと2回程話し合いをしました。</p> <p>TRCの全国実績としましては、全国の図書館の半分以上の実績がある企業になります。業務としてはペスタロッチ館の貸館業務、図書館の管理運営全般、2階にある郷土博物館の設備的な保守管理ができるということです。今後の取り組みとしましては、町長部局と検討しながら進めていきたいと思います。</p> <p>生涯学習課としての目標としては令和6年度には指定管理又は管理委託に移行できればと考えています。その際の条件として開館時間の延長、月曜日が休館日ですが祝日と重なった場合には開館するような運営でお願いできればと考えています。以上です。</p>
瀬島室長	ペスタロッチ館の管理業務委託について質問等ありますか。
山崎町長	県内の実績はどうですか。
小原課長	県立図書館は施設管理や警備を委託されて運営は直営です。市立では高梁市がツタヤに指定管理を出されています。玉野市がTRCに委託されています。
宗川委員	現在は図書館司書が中学校、小学校に入っていてそことの連携今まで通りということ子ども達に本の紹介や読み聞かせについては今まで通りと考えても良いでしょうか。
小原課長	サービスについては質の低下等は考えていませんので今まで通りやって頂くつもりです。
委員	地区公民館との連携も今まで通りですか。
小原課長	今まで通りです。
瀬島室長	月曜日に祝日が重なった場合は開館ですが、普通の祝日は休館ですか。
小原課長	休館になっています。普通の祝日は休館ですが要望があれば開館するかもしれません。
武本教育長	月曜日も開館をお願いすれば対応してもらえますか。

小原課長	はい。問題ないと思います。
山崎町長	年中無休ではないですか。
小原課長	そういう条件をつけて話し合いをすれば雇う人数にも寄りますが対応はできます。
武本教育長	玉野市はどの程度の額で委託していますか。
小原課長	金額は雇っている人数が全然違うのと、商業施設と一緒になので午後8時まで空いているので金額がかなり違ってきます。
宗川委員	施設的には現在新しくされていますが、内容は変わらないですか。例えば居場所作りとして中高生に必要だと思いますので、地域から図書館への要望を聞くアンケートの予定はありますか。
小原課長	今行っている改修が照明と冷暖房が主になっているのでスペースなどについては改修を行っていません。
宗川委員	中高生が試験前に図書館にいると思います。居場所作りとして中高生に家庭教育支援事業として試験的なものをしてみますが、時間帯も月1回と難しいので職員の方がいたらと思います。そういった声を拾っていただいて図書館に寄るような流れに子ども達がなるように考えてもらえたらと思います。
瀬島室長	次にその他についてありますか。
宗川委員	教育委員会の方でも紹介しました子ども広場さんのメンバーによる自主上映会を2月12日ペスタロッツ館夢ホールで開催を考えてくれていますが、実際にまだ映画を見てはいませんが、子ども達が生き生きとして自然をモチーフとしているそうです。 私としては学校の先生方に見てもらって何かヒントを貰って考えてもらえたらと思っています。鏡野町は自然を使っているとのことですが、もっと自然を使えると思います。保育園もそうですし、小学校も地域との連携をしています。さらに繋がるためのヒントがあると思っています。
瀬島室長	その他、何かありますか。

山崎町長	先ほどの多目的公園の件は、事業名は文化スポーツセンターを含めた内の一つですか。
小原課長	そうです。
瀬島室長	また名称、愛称を公募しますか。
山崎町長	そうですね。香北の子どもさんが津山の保育園からも来ているそうです。安心して遊べるところが欲しいと千人アンケートで毎回いただいていたものを実現できました。アンケートが届きましたらよろしくお願いします。
石原委員	小学校教育環境のあり方について小学校の特認校の扱いについて深く研究しながら委員会で進めたらよいのかが一点で、二点目がペスタロッチ館の条件の中で指定管理か業務委託かの表現でしたけどこれを一本に絞りながら研究を進めてもよいかを町長からの判断を聞きたいです。
山崎町長	日下君（文化財担当）の立ち位置はどうなりますか。
小原課長	施設の管理だけで展示物などは触れません。図書館については全般委託ないし指定管理を考えています。
山崎町長	特認校につきましては先程も話しましたが、特異なところにチャレンジするのはあるかもしれませんが、やろうと思っても物理的にできないこともあると思います。そういった現実が全国で起こっていると思いますので、内容をどうするかは皆様の意見を参考にしていきたいと考えています。
瀬島室長	それではこれで閉会したいと思います。本日はありがとうございました。  (散会)

令和5年1月31日

議事録署名人

鏡野町長

鏡野町教育長